[明治三十年十二月二十三日第三種郵便物認可]　昭和十二年十月十六日　磐城新聞　[土曜日]　第五千五十四號　[一]

夕刊
磐城新聞
十月十五日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六十五錢
廣告料 五號活字十二字詰一行金九十錢
發行所 磐城新聞合資會社
(日曜祭日翌日休刊)
東京振替一〇八五五六五番

天氣豫報
小名濱測候所發表

今晩は北西の風晴
明日は南東の風晴後曇

アスハルト
高瀬勝男

×

使はないと、とかく、もののの役、その用をなさないなんでもいい、もの一つ、使ふなれば、それなりに役にたつもの

更めて、もののうち、わが、あたまを驅使してみよう

×

さびたペンをぬぐつて秋色、又こゝにしきりなる慢心ただよふ、すつかり、秋の装に日一日と、肌寒くなりたれば衣替も、きのふきよう、ばや名月のすぎた動晩、アスファルトの舗道をこつこつと歩むと、ても捨てられた紙の一片にさへ言葉をかけてやりたい程秋は感傷にひたつてゆく

ろぢから現れる、犬の尾をふれば可愛ゆげに、愛撫も秋になればこそ

・果物屋の店頭に、秋果盛り上り、みちゆく女性も際だつて、美しくなつた

一房の葡萄は喰ふより室に飾りたい、とかく、自然そのまゝに、靜かにみつめると、噫、アスファルトにも街の行方がしつくりとうつ、てくる、飾窓に正札をつけた、かゝどの高い靴

呉服屋の新柄陳列、そしてごみごみした街ながら軒ごとに季節が漲つてゐるのだ

商人のごあいそに、北叟笑んで街から一歩、稲はたわゝに實り、畑の作物節なりに精一ぱい元氣である

騒然たる時局、アスハルトに緊張した、空氣をみせて近頃頓に心忙し

×

十月になつて始めての日曜を襲を背負つて、一日[illegible]

×

必ず、街をはなれて外交に出るときゲートルと申す布を卷く、補充の特務兵、動員にそなへる、錬習のつもり、やせたりとも、これならん立派なる軍籍にあり勇躍一氣に支那の兵隊をほふる覺悟、諸君、安塔して可なりと謂ひたい

×

アスハルト、懸生自轉車をかつて走る

この秋、行人みな、緊張そのものだ、日章旗も祝出征の歡送の辭あり、必勝と大書して熱意の程、強く響く、希ひねがはくば賢人の商賈こそ大事なれども日章旗にそむ[illegible]

×

日々是好日、故人になつた磐城老人は、絲骨庵主の爲書をして[illegible]はづかしい

10月16日

△金銅の盧舎佛造營(天平一五)△片岡仁左衛門歿(昭和九)△東京商大の佐野學長辭任につき後任として三浦新七博士推薦さる(昭和一〇)

噫篠山校長喪北堂
珠雲　小野務平

蒔育多年家運昌
鳳雛鶴子亦才良
堅貞淑德人皆仰
底事一朝蘭惠傷

『川柳』時吟（下）
華生

農村の杉の天辺日章旗
號外に仕事を捨てゝ飛び出だす
何處見ても擧國一致の現はれて
運動の競技も總て武張りけり
カフエでも甘いレコード鳴らされず

青春第一歩
—コント—
木暮　眸

下

『俺がおど〳〵してゐる内にさつさと追拂つてしまつたつけ』と三造は、又にやつとした。實際、お春は普段三造と話してゐる時もやさしいし、先週の日曜に三造が行つた時には年老いたお母さんの肩をやさしくもんでゐた。近所の一、二軒のみならず、此の廣く散在する村のどの人からも『お春さんは孝行だの〜』と云はれてゐた。そして『ほんとに春ちゃんはきれいだなー』と三造は思つて、ぼんやりと窓の外で上になり下になりして飛んでゐる黄蝶をながめてゐた。——と、『三造』と呼ばれた。五六人指したが出來ないので三造の所にお鉢が廻つて來たのだ。『三日です』と殆ど反射的に答へて又想ひにふけつてゐた。

敎室内がザワついて來た。皆が樂しみにしてゐる紙芝居が來る頃なのだ。皆早く終[illegible]思つてゐるだらう。三造も紙芝居とは別に早く終るのを願つて居た。終業の鐘がなつた。ガタガタと立ち上つた。先生が出るとワーッと我勝ちに驅けだした。紙芝居の拍手木の音が聞えだした。三造は一目さんに丘の方へと驅け上つて行つた。茜色の空に鳶が弧を畫いてとんでゐた。

講談
悲戀 髑髏組（どくろぐみ）
(20)
林　杢兵衛　作
金子　士郎　畫

いかすの喘（一）

きのう一日、まるで船底の牢獄に幽閉されたように重苦しく過した幾代だが。けふはまだなんと云ふ朗かさだ

約束通り、石藥師の境內で乳母のおこまと騎る時刻を打合せて別れた

刑部に逢ふのは、あれから丁度九日目、それと思ふと幾代の足は地につかない

數へて見れば僅な日にちだが、幾代には底知れぬ長い年月にも思はれた

(必ず御無事)とは、信じながらも顔を見るまでは安心ならない(逢つたなら何か話さうか、まだ肝心の戀心は打開けてない、それにきのふの非常の話しを持ち出しては?だが、どうしても話さなければならない。自分はとうに覺悟をきめてゐるものゝ刑部樣が果して何んと仰有るか?　とに角可であらうと、不可であらうと自分はもう家に歸らない）考へながら歩みを運ぶ其の前に、突然立ちはだかつた男がある

『幾代さんで御座んすね』

にや〜と薄氣味の惡い笑を浮べて話しかける。ついぞ見たこともない男、掛り合せては大變と、道を避けて通らうとすると、またそちらの方へ寄る意地惡さ

『ヘツへお嬢さん、猪首の勘太は盲目ちやねえから。ちやんと知つてゐますぜ』

『…………』

『何んとか物くれへ云つたつて、罰は當りやしません此の道を眞つ直ぐ行きやア北小松、ね?甚兵衛のせ水車小屋で御座んしよ』

圖星を指されて幾代はギヨツとしたが、素知らぬ態だ

『それがどろしたと云ふんです』

『矢張水車小屋で御座んしたね』

『行つてはいけないとでも云ふのですか!　甚兵衛はもと店に居た爺やですよ』

『そんなこと位え、誰だつて知つてゐますがね、つい此の頃、知らない人がもう一人、あすこに居るんで御座んしやう?』

『知らない退いて下さい』

『ヘツへ察しの惡いお嬢さんだ。あつし共はねお嬢さん、あの水車小屋に誰が居るか、もう夙くの昔、知つて居るから不思議でせう、此の御詮議嚴しい折柄に、知つて居ながらお恐れながらと訴つて出ねねのも、差詰お嬢さんに迷惑が掛つちやならねゑと思ふからでさア。それだのに、お嬢さんがそのお積りなら、何もかもはねわから代官屋敷へ訴人すりや、何んと云つても倉持の大將を殺した大罪人いけゑ御褒美が戴けるちやア御座んせんかい?』

おつに絡んだ脅しやう。

『どつちみち、長えこたアねゑ浪人者惚れたお前さんが氣の毒だ。今生の見納めに、とつくり逢つてお殺きなせえ』

と、背後に廻つて浴びせた一言

『えゝッ!　ではお前、訴えると云ふの?』

『ヘツヘそこが魚心に水心ぢや御座んせんか、あつしだつて何もそんなに薄情な眞似はしたくねんですがね此頃のやうに仕事もなく食ふに困るやうな有樣ぢや、背に腹は替られね理窟で御座んしやう?』

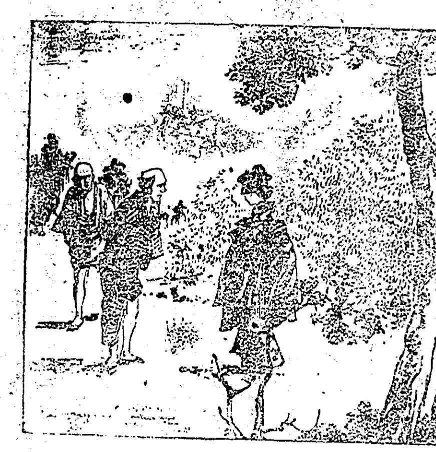
『それぢや、當分困らないだけの金があれば、訴へないでもいゝ譯だね』

『ま、さう現金になる譯ぢや御座んせんが、あつしだつて何も人の悲しむ事を無理にしたかアありませんからね』

『では、一體どの位ゐつたら我慢してくれますか?』

『ね、ちやあのお嬢さんが下さらうと仰有るんで御座んすかい?そいつア有難え仕合せだ。なア兄弟。どんなことにしておかう?』

勘太の言葉に、初めて振返る幾代の目に映るもう一人の男。これも腮の下へ双矢張りニヤ〜と薄氣味惡く笑つてゐる。云はずと知れたつばくら小六。二人は素早く何やらを目で語り合つたやうでもある



パーマネント—マシンの設備
※非常時に備へる
銃後婦人の途
それこそ一回の御手當で六ケ月を保つパーマネント……を!
△時間の經濟と能率增進……
△非常時にふさはしい御洋髮…
△洗髮も御任意のまゝ……
◎パーマネントは歐洲大戰以來の流行
御家庭の滿足も、美容の保全から生る
平市驛前
水野化粧院
主 水野冬子
電話 一五二五番 一六七八番

恐るべき中風、腦溢血を退治せしむる
アイヨー錠
血壓を下げ、血管若返り、中風を全治し、早老及老衰を豫防す。
中風の原因は血管の硬化にあり血管硬化すれば血壓高まり精神的並に肉体的に退行現象を生じ所謂老年病を誘發し或は中風腦溢血を突發す。
アイヨー錠の應用は血管に若返り現象を與へ老衰の進行を緩徐ならしめ初老及中老期に隨伴する總ての不快症を除去し中風を豫防す。
動脈硬化症、高血壓症、初老期に於ける體力及精力減退、中風、腦溢血の豫防に常用すべき貴重藥
百四十四錠(八日分)貳圓　四百八十六錠(廿七日分)六圓
千八百錠(百日分)貳拾圓
專賣店　山野邊藥局　平市五丁目　(電呼六六八)

吸入用酸素 純度99%
度量衡 モノサシ・マス・ハカリ
計量器 体溫器 寒暖計
關內藥局 電話四〇番

石炭値上御通知
磐城一等塊 一金五十錢也
磐城貳等塊 一金四十錢也
一、品川豆炭
大袋 五貫匁入 金八十五錢也
小袋 一貫匁入 金二十三錢也
一、コールタール(十五キロ入) 金九十五錢也
一俵ヨリ配達致シマスカラ是非御注文下サイ
電話三一七番
平驛前 阿部石炭店

旅舍 大幸館
私は平市出身ですから特に郷里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります
主人 比佐棟雄
電話下谷(83)六七七七番
東京上野驛前 下谷郵便局横通角

酒は良し
氣分は滿點
おでん 吞兵衛
平市田町

産科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井坂醫院
平市田町 (元合津醫院跡) 電話五五九番

ほねつぎ
桑原柔道整骨院
平市公園下 電話六七四
神經痛 リウマチスニ オレンヂパスタ

呼吸疾患救濟の王……
陸海軍御用
帝國大學醫學部御用
官公立醫學專門學校御用
吸入用酸素
體溫計 (メートルグラス)
御用命次第迅速に御屆け致します。
處方箋調劑所
平市古鍛冶町縣社ノ下
阿康藥局
電話四四番 振替口座東京三〇〇六五

夜間診療
專門 内科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科
松村胃腸性病科醫院
(平市南町電一〇七番)
(見習看護婦募集)

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社石油特約店
關彰商店平支店 電話六一番
本店 水戸線下館驛前 (電話五五・三三九番)
營業種目 石油、揮發油、輕油、重油、マシン油、モビール油、機械油類、植物油、胡麻油、種油、タール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ
支店所在地
茨城縣土浦町田宿 (電話六五三、二四)
常磐線關本驛前 (電話平潟五四)
常磐線四倉驛前 (電話四八)
久慈濱支店 (電話三一七番)
小名濱支店
海上給油 (大津 平潟 江名) 及油槽所

―郷土工業界―
―トピック―

共榮依存の見地から 四倉セメント八茎と接近
地方民成行きを注視

一兩年前既に千七十萬圓と云ふ巨額な株金を擁し年産約百六十萬噸この金額七百三十萬四千圓と註せらるる偉大な生産力を謳はれる磐城セメント會社では現在製品原料たる石灰石を磐越線神俣方面及び本部大野村八茎礦山より供給を受けて來たが輸送距離の關係から兩者間に少からず運賃の相違あり、必然の結果として其のコストに影響する處頗る重大なるものあるので近來同社と八茎礦山との共榮依存を考慮する一部關係者により今後二社の鞏固なる結合の下に原料の一大增産を期し、遠隔地からの原料搬入を少からしむるに於ては共間採算上大に見るべきものあるではないかと云ふ事となり寄々右に關する調査を進めてゐると傳へられてゐるが昨今近代建築の最も重要なる材料として鐵筋コンクリートの倍々發達途上にある時に於て地方工業界に齎す處頗る大なるものとして其の成行きが注視されてゐる

大森方面委員勤續表彰

市内南町醫師大森勇氏は十五日福島市公會堂で開かれた創立十五周年記念縣下方面委員大會で十年以上勤續方面事業功勞者として感謝狀に記念品を添へ表彰された

愈よけふ 狩獵解禁
躍り出た獵天狗

けふがいよ〳〵第一次狩獵解禁日、銃や愛犬の手入れなど用意をさ〳〵怠りなかつた地方の獵天狗連は時こそ至れり……とばかりに一齊に躍り出たのだ、本年は暑さのためいさゝか季節は遲れてゐるが海岸方面にはカモ、シギ、平坦部には兎、鳩、小鳥、山間部には熊の繁殖が多く、日照りが續いたため雉、山鳥の繁殖もすばらしい、猪苗代湖附近のバン、カモも近年になく豐富だ、それにもまして嬉しいことは陸軍省より本縣に割り當てられた兎毛皮は十萬枚の多數で、從來の倍に達してゐるので養兎だけでは間に合はず小兎の多量狩獵にも馬力をかけなければならないことになつてゐる

―精神總動員―

青柳、志水兩氏 非常時下の叫び
講演會成功裡に終る

國民精神總動員強調週間中の催しである『時局講演會』は既報の如く昨十四日午後一時から第三小學校講堂に開催、本縣社會教育課長佐藤所男氏の精神總動員を織り込んだ開辭に次いで講演に移り、本縣警察部長青柳一郎氏は『抗日の支那を語る』と題して日淸戰爭以來現在に至る支那の狀勢から抗日の由來及その歸趨、文部省教學局教學官志水義章氏は『非常時局と國民の覺悟』なる演題の下民族、經濟的に觀た日支關係及列强の對支問題殊にイギリスの對支政策等に就て何れも熱辯を揮ひ非常時下の聽衆に深い感銘を與へた、青沼市長の閉辭で同四時意義ある會を閉ぢた

この母子を見よ
干草代をソックリ献金
神谷村二面一家の熱誠

軍人家族なればこそ一層の銃後意識か――神谷村二面一家は長男眞純君の出征後、病父首さんが軍事救護を受けてる身分ながら母親フミさんと尋常六年生の次男宣孝君は進り出る銃後の感激から此程母子揃つて刈り取つた馬糧干草を献納すべく去る十二日學校に運んだので井上校長は息子さんが出征してるのだから……とその熱意に感じながら干草代として五十錢を與へたところ、翌日宣孝君は六十錢を献金しますと學校に寄託した これは前日の五十錢に運動會の小遣ひとして用意して置いた十錢を加へたもの 井上校長はじめこれを聞いてスッカリ感激してゐると云ふ

賣られゆく身は悲し
第一校のボロ飛行機 公賣に附さる

平第一校庭の片隅にある參考資料の『飛行機』は昨報の如く市參事會で不用品として賣却することとなつたので市當局では來る二十二日正午からこの外古レール、鉋金等と共に公賣に附すと

この飛行機は數年前開かれた愛國博覽會の際無償拂下げを受け、當時は一般にも相當人氣をあつめてゐたものだが、其後暴風などにやられて破壞甚しくとう〳〵賣られ行く悲運?にたち至つたものだ

鐵管泥―不良古物商の第二次檢擧へ
數名を槍玉にあぐ

既報、平市役所水道部の鐵管泥橫田父子の檢擧をきつかけに不良古物商鐵材泥の一掃に手を染めた平署では既に三十餘名を擧げてこのうち七名が强制收容されたので更に第二次檢擧に着手、先づ赤井村西小川松澤淸二郎(四二)外數名を槍玉にあげ目下佐藤司法主任係りで取調べを進めてゐる

松澤は去月二十三日赤井村中川原雜木林から福島炭礦請負倉林萬作氏所有の石炭捲あげ機(二十五貫二十餘圓)を竊取、これを好間村鈴木藤一郎に賣却したものらしい

水戶市議來平。。。。。 水戶市會議員澤田德道氏は十九日來平、施設事業を視察

吉田氏寄附。。。。 市内材木町吉田平一氏は金五十圓を軍事後援會へ寄附

故きを―溫ねて微笑む
卅年前の地方紙社會記事

H

石城酒造組合では昨報の如く、中央會に於ける統制方針に則り前年度の實績を最高限度として造石高を決める事になつたが、酒造家の維持經營困難は既に三十年の以前に於ても同樣で明治四十年八月二十五日發行の『いはき』第五號には次の如く記されてゐる。而も現在市郡下の釀造家三十五軒この造石高一萬五千五百五十七石に對して當時の業者五十數名、造石二萬石。所謂適種生存を物語る變遷の跡に轉だ今昔の感無き能はざるものがある

×

『石城部酒造組合』なる當時の記事全文

――石城郡酒造組合は明治三十三年二月の勅令に基きて組織したるものにして、當初九十名の會員を有し、小野定太郎氏(小名濱町)組合長となり、永山泉七郎氏(飯野村)副組長を勤め居りしも其後會員が漸次減少して今や殆ど半數となれり會員の減少せるは、一は酒造業か爲すよりも他の事業に利益多きを認めて轉業せるものあると、一は酒造業失敗の爲め廢業せるものあるとに因る。酒造業の失敗の第一原因は税金の多きが爲にして、資力乏しき者は現金調達のために競爭濫賣をなし、收支償はずして倒産するに至れるなり

組合にては此の惡弊を防がんと欲し、規約を制定して嚴重に勵行し、評議員會に於て定めたる價格によりて販賣することゝなせしより、事業の根底漸く堅固となり、近來は利益も多くなり營業も發展し、酒價亦高くなれり

二三年以來工業の勃興に伴ひ、人口著しく增加したるを以て酒造業も自ら發展を促がされて昨年度の産額は一萬六千石に過ぎざりしが本年度は二萬石に達せんとするに至れり

酒造業は年々發達し來れるも尙は郡內の需要を滿たすに足らず他縣より移入する酒類數千石に及べり、目下最も消費するは平町にして諸炭山之に次ぐ

組合員中最も斯業に熱心なるは大平左司馬(磐崎)古川德三郎(鮫川)馬目留吉(內鄉)小野賢司(小名濱)等にして會員は左の如し。云々

として五十三人の名を聯ねてゐるが中に多數の代變りは當然として其の後時代の波に飜弄されて脆くも倒産し、『酒屋さん』としての貫祿を完全に解消し、ものの哀れを止めてるのも少くない

軍人家族に 既に千餘圓
後援會の慰問

出征軍人遺家族に對する第四回慰問は昨報の如く各種婦人團体によつて行はれ、合計五百五十圓(通計千餘圓)を贈つたが今後も毎月一回の豫定で夫々戸別に訪問溫い救護の手をのべる筈である

澤田君北支で戰傷
＝植田町瀧の口出身＝

植田町字瀧の口桂吉氏長男澤田龍熙君は十日北支○○方面で名譽の戰傷を負つた旨十四日實家へ入電あつた

澤田君は昨年一月現役を志願、○○隊に入營活躍中のもので實家は蹄鐵業と雜貨商を營み桂吉氏(四七)母きみさん(四四)の外弟妹五人ある

平紹介所便り

○第六回滿洲國軍用通信候補者を募集してゐるが資格は日本陸海軍除隊者で有線又は無線電信術を修得した下士官兵のうち三十才以下のもの、採用者は來月二十日奉天軍用通信補充廠で約四ヶ月間敎育の上は軍屬として初任給七十七圓乃至百三十圓

川和久愛婦で十圓。。。。。 高久村下高久川和久愛國婦人會では金十圓を國防費として

雄々し非常時女性
平看の茂垣さん應召

市内南町平看護婦會員茂垣しつい(三二)さんは昨十四日早朝○○司令部よりの電報で出動を命ぜられ○○病院に勤務する事となり平素の念願叶つた喜びに踴躍、準備のため即時郷里栃木縣中川村大字後郷一、四三二に出發した

因に同會から從軍看護婦は之で四人目である

早くも年末首の備へ
軍國の正月に賀狀洪水を見越して
平局で郵便競技會

今正月に於て引受五十六萬の外各方面から雪崩れ込む無數の賀狀を吞吐し匆忙繁激まさに準戰狀態を現出した平局では來るべき年首末に於ける事務運行上の對策として從業員の技倆向上及び氣分の緊張を圖り併せて能率の增進を期する爲來る三十一日の日曜を卜し午前八時より左記により郵便競技會を開催する事となり目下夫々準備中であると

競技種目 1東京市區域及把束 2大阪市行政區々分及把束 3府縣區分及把束 4特別通常差立 5押印及取揃 6配達局區分及把束 7集配手道順組立

ノラクロ上等兵?
軍服姿で大威張り
小名の元公脫線の巻

昨夜七時頃五尺足らずの小男ながら星三つの軍服、軍帽姿颯爽?と平驛待合室をウロ〳〵してゐるのを平署員が發見、事情をきくとこれは何と時局の波に乘つたノッテイ男の脫線と判つた 小名濱町中島沖見町の魚商佐藤元嗣(一八)で十四日朝家庭の事情から家を飛び出し、小遣錢十圓で前記の服裝を整へてスッカリ上等兵ドノ?になりすまし西白河郡矢吹町の叔父を賴つて行く途中だが照會の結果は

實家が家族九人の糊口にさへ困る程貧困なのに家を外に遊び廻つてゐる厄介者と判り、懇々諭されるや軍服の手前も愧ぢずメソ〳〵泣き出してしまつた、昨夜のうちに親元へ逆もどり

平署へ

盜難二件

赤井村小學校宿直室に十三日賊忍び入り洋服から二十七圓入りの蟇口を竊取。內鄕村飲食店箱崎與市方でも十三日朝現金二十圓入り財布の盜難にかかつた

至急募集
一、少年工場員
小學卒業程度にして市內居住者、希望者來談あれ
磐城新聞社

變化女捕はる

上小川村上小川生れ横川キチ(三二)假名―は十四日夜市内南町地內を徘徊中平署員に捕はれた

去月末以來市內白銀町川又呉服店からコンパルの女給として銘仙、セル一反(十三圓)、一丁目野木履物店からは水戶屋の女中として二圓五十錢の下駄一足を詐取、南町鈴木齒科醫院では湯本驛前高橋テルと詐稱して金齒二本を入れて行方を晦ました嫌疑らしい

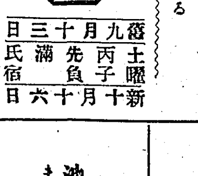
同女は勿來町飲食店一力の女中をしたことがあると云ふ

市原醫師夫人

茨城縣大津町醫師市原睦郞氏夫人まさ子さんは昨十四日藥石効果無く同夜九時三十分長逝、明十六日午後一時自宅に於て告別式を執行する、行年四十七、溫良貞淑の譽高かつた人、各方面から惜まれてゐる

平署員異動

平署高等係主任警部補 三林彌生 警務課勤務
郡山署巡査部長 芳賀重雄 任警部補平署勤務
平署巡查部長 本田泉 任警部補保安課勤務



舊九月十三日	土曜	丙子	先負	滿	氏宿
新十月十六日					

諸判定廳署 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 堅實に物事を運べば大吉となる短慮は禁戒▲二黒 日頃の業務に精勵し穩和に努めなければ吉▲三碧 れん磨力を強めて一事に熱むれば安全を保つ▲四綠 氣迷平靜なれど目上との間又は金錢上注意▲五黄 前途ふさがりた生じて之が切開きに容易ならず▲六白 意氣あがらず不快に過すべき日病盜難注意▲七赤 逆境に立ちすこぶる不安なる日文書の紛紜注意▲八白 萬事不利におちいらんとする日本業とても注意▲九紫 自己の本分とする所を盡せば平安無事の日

十六日(小名濱潮候表)
滿潮 前〇、四五 後一、五五
干潮 前七、三〇 後八、三五

荊妻まさ儀十月十四日午後九時急病にて逝去致し候に付此段御通知申上候
追て十六日午後一時自宅に於て告別式執行同日郷里平市に於て荼毘に附し大寶寺に埋葬可致尚は時節柄造花放鳥等の御贈與固く御辭退申上候
昭和十二年十月十五日
茨城縣大津町
市原睦郞
男 市原健
親戚 青沼鋒太郞
市原卯太郞
總代 宮浦秀雄
友人組代 大山重吉

生花教授
池ノ坊
生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平市四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

新車のお知らせ
斷然!!! 乘心地良い!!!
三七年型フォード
入車いたしました。
是非! 御試乘の程を!
市內四丁目
スヾキタクシー
電二一七番

自動車料金値上に付謹告
自動車並に部分品及ガソリン暴騰に付無已來る本月十五日より二割內外の値上げを致しますから御諒承を願ひます。
一、ガソリン一ガロン 時價最低三十二錢なりしもの現在六十五錢
一、自動車部分品 四割內外の騰貴
以上
福島縣自動車協會
平支部

平市新川町
北川外科
電四六四

簡易ノ金融
磐城無盡
趣味ノ貯蓄
出張所縣內各町

廣告